

●調査概要

- ・期間：12月3日～15日
- ・対象：「ケーブル年鑑」より、総接続世帯数上位50社のケーブルテレビ事業者（J-COM、NTT東西のWebサイト上で光コラボ導入を公表しているケーブルテレビ事業者（表1）は除く）
- ・有効回答数：35局（70%）

## 主要ケーブルテレビ事業者対象

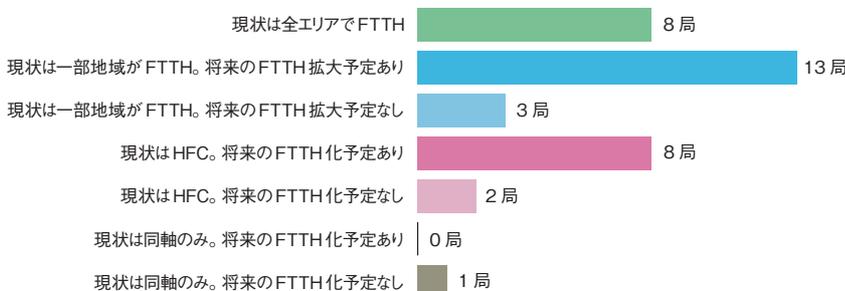
# 「光コラボレーションモデル導入意向調査」

# NTT東西「光コラボ」導入の意向は 導入派が導入否定派を上回る結果に

現在、NTT東西の「光コラボレーションモデル」（以下、光コラボ）を導入するケーブルテレビ事業者が増えてきている。自社で設備投資をすることなくFTTH提供エリアを拡大したり、すでにNTT東西のフレッツを契約している世帯を自社サービスのユーザに置き換え（転用）たりすることができるからだ。しかし、ケーブルテレビ事業者とNTT東西は今まで競合するサービスであった側面もある。今回本誌では、全国の主要ケーブルテレビ事業者を対象に光コラボ導入の意向を明らかにするためアンケート調査を実施した。

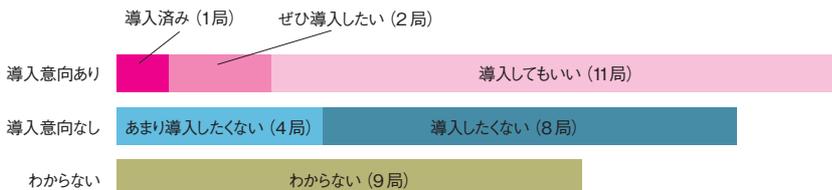
今回の調査では、すでにNTT東西のWebサイト上で光コラボ導入を公表している30局以上のケーブルテレビ事業者（表1）は調査対象から除いた。今回の調査対象は、光コラボ導入の意向を公表していないケーブルテレビ事業者のみだ。それにもかかわらず、導入の意向を持つケーブルテレビ事業者が、導入に否定的な事業者を上回る結果となった。●調査・文：渡辺 元・本誌編集部 ●調査協力・文：中平良磨・東京造形大学 非常勤講師

図1 自社の伝送路インフラの現状と予定



質問1では、伝送路インフラの現状と今後の予定について聞いた（図1）。結果は「現状は一部地域がFTTHで、今後拡大を予定」している局が回答局中37%を占めた。次に「既に全エリアをFTTHにしている局」が23%、「現状ではHFCを使用、将来的にFTTH化予定」の局は23%であった。

図2 光コラボ導入についての考え



質問2では、「光コラボレーションモデルへの考え」を聞いた（図2）。導入の意向があるケーブルテレビ事業者が14局、導入の意向がない局が12局と、およそ半々に割れる結果となった。注目すべきは、質問1で「全エリアをFTTH化している事業者」の回答だろう。それら8局は、「導入してもいい」が4局、「導入したくない」が4局であり、明確に意見が分かれることになった。

質問3では、光コラボの導入への課題を複数回答で聞いた（図3）。やはり、「NTT東西との競合」を課題と考えるケーブルテレビ事業者が最も多く、20局が